

△の研究不即ち主観的方面用題の研究と客観的方面の研究と相対的方面の研究と絶対的方面の研究とを其れて有る

第二十四節 主観客観と云ふ語の共通認識

体と以て知るものと知らるものとの関係

本前者と主観と云ふ後者と客観と云ふの下

有る也此意はあらして言ふを其心と物と

と同いつへして知らるもの即ち認識の好

象と客観と下る也第二の意は下る也

と自然との関係あらして前者を主観と云ふ

後者と客観と云ふの下有る即ち心と主観と

物を客観と有る也今也

此歸納法も主観的方面客観的方面と申し

とのと第二の意は主観的客観的と有るを

の爲め主観的客観的の自然と云ふ

て主観のそ有る

事なり有り本を其系統全体の耳ありまへ

を此全宇宙一切万有の中の一のものとして

主観位を主けま此一もの下を其所の他

二つの意は有る  
第二の意は下る也

東洋書院

